

アラン W.ブラック
社会学准教授

ニューイングランド大学
オーストラリア、ニューサウスウェールズ州アーミデール

サイエントロジーは 宗教なのか？



1996年1月24日

サイエントロロジーは
宗教なのか？

サイエントロジーは
宗教なのか？

目次

I.	専門経歴	1
II.	宗教的側面	3
II.I.	実践と儀式的側面	3
II.II.	経験的側面	3
II.III.	物語や神話的側面	3
II.IV.	教義と哲学的側面	4
II.V.	倫理的側面	4
II.VI.	社会や施設の側面	4
II.VII.	物質的側面	5
III.	サイエントロジーの分析	5
III.I.	教義と哲学的側面	6
III.II.	物語や神話的側面	9
III.III.	実践と儀式的側面	10
III.IV.	経験的側面	12
III.V.	倫理的側面	13
III.VI.	社会や施設の側面	15
III.VII.	物質的側面	16
IV.	結論	17



アラン W.ブラック
社会学准教授

ニューイングランド大学
オーストラリア、ニューサウスウェールズ州アーミデール

サイエントロジーは 宗教なのか？

1996年1月24日

I. 専門経歴

宗教研究を専門とする社会学者として、「サイエントロジーは宗教か？」という質問を受けることがあります。その質問に答えるにあたり、私はサイエントロジーが真か偽かを明言しようとしているわけではありません。むしろ、宗教を定義するために一般的に使われている基準をサイエントロジーが満たしているかどうかを検討しようとしています。その基準は完全には明確ではありません。さまざまな著述家が異なる定義を提案しています。それらの定義はW.G.ランシマンによるものからワーナー・コーンによるものまで、広域にわたっています。前者は、その用語を「イデオロギー」と同義語として使っています。後者は、英語の「religion(宗教)」はあまりにも複雑で、あまりにも文化に依存しているため、その単語を非西洋文化または非キリスト教文化に対して用いるのは不適切であると主張しています。

それでもこの分野のほとんどの学者は、宗教が、超自然的あるいは神聖な、または超越的という基準点を持つ信念と実践の体系であることに同意するでしょう。これを共通の出発点とすれば、宗教として認められている（すべてではないにしてもほとんどの）ものに見出されるさまざまな特徴を識別することが可能です。特定の信念と慣習の体系がより完全にこれらの特徴を示すようになればなるほど、より明白にそれを宗教と見なすことができます。

宗教に典型的に見られる特徴を識別する上で、世界的な宗教学者のひとりであるニニアン・スマートが提唱する枠組みを、ここで用いることにします。³これまでの私の論文のいくつかでこの

1. W.G.ランシマン(W.G.Runciman), "The Sociological Explanation of 'Religious' Beliefs," Archives Européennes de Sociologie 10 (1969):149-191.

2. ワーナー・コーン(Werner Cohn), "Is Religion Universal? Problems of Definition," Journal for the Scientific Study of Religion 2 (1962):25-33.

3. スマートは、1967年から1982年までランカスター大学(イギリス)の宗教学部教授でした。1976年以来、カリフォルニア大学サンタバーバラ校の宗教学部教授を務め、現在は比較宗教学准教授です。

枠組みの幅広い特徴を使用してきたように⁴、それは単に本研究の目的のために採用しているのではありません。

私はサイエントロジストではありません。私の結論をまとめるにあたり、サイエントロジーの出版物を詳細に調査し、シドニーのサイエントロジー教会での活動を観察し、参加者たちにインタビューをしました。私は、世界の他の地域におけるサイエントロジーに関するさまざまな社会学的研究にも精通しています。

私が調査した主なサイエントロジーの出版物は、以下の通りです。出版された順に記します。

- 『ダイアネティックス：心の健康のための現代科学』（1950年）
- 『ダイアネティックス：科学の進化』（1950年）
- 『生存の科学』（1951年）
- 『上級の手順と公理』（1951年）
- 『サイエントロジー：人間の歴史』（1952年）
- 『サイエントロジー 8-80』（1952年）
- 『サイエントロジー 8-8008』（1952年）
- 「フェニックス講演」（1954年に提供、1968年に出版）
- 『人間の能力の創造』（1955年）
- 『サイエントロジー：思考の原理』（1956年）
- 『Have You Lived Before This Life? (前世に生きていましたか?)』（1960年、1977年に改訂）
- 『サイエントロジーのエシックス入門』（1968年、1989年に改訂）
- 『サイエントロジー 0-8：基本の書』（1970年）
- 『サイエントロジー教会の背景と信条』（1970年）
- 『Mission into Time (時への使節)』（『A Test of Whole Track Recall (全軌跡の想起のテスト)』1968年版が1973年に拡充）
- 『しあわせへの道』（1981年）
- 『Eメーターに対する理解』（1982年発行、1988年に改訂）
- 『サイエントロジーとは何ですか?』（1992年）
- 『サイエントロジー・ハンドブック、L. ロン ハバードの作品に基づく』（1994年）
- 「サイエントロジー教会40周年記念」（1994年）

4. 例：アラン W. ブラック & ピーター E. グラスナー，eds (Alan W.Black and Peter E.Glasner, eds.) *Practice and Belief: Studies in the Sociology of Australian Religion*, Sydney: Allen and Unwin, 1983.

前記の出版物はすべてサイエントロジー教会公認のもので、ほぼすべてが L. ロン ハバードの著作物です。すべてがハバードによって著されたものではない書物は、彼の作品に基づくものとなっています。以下で述べる引用や参考文献は、英語で利用できる最新版です。

II. 宗教的側面

ニニアン・スマートは『The Religious Experience of Mankind (人類の宗教的体験)』(初版1969年、第2版1976年、第3版1984年)の中で、宗教には典型的な6つの側面があると主張しました。最近の概要『The World's Religions: Old Traditions and Modern Transformations (世界の宗教:古くからの伝統と現代の大変革)』(1989年)の中で、彼はこれら6つの側面を用い、7つ目を追加しました。それらは以下の通りです。

II.I. 実践と儀式的側面

宗教には通常、人々が関与する特定の実践があります。これらの実践の形態は大きく異なり、礼拝、説教、祈り、瞑想、告白、犠牲、供物、通過儀礼、その他の神聖な儀式などの活動が含まれます。これらの実践は、東方正教会の聖体礼拝やオーストラリア先住民族(アボリジニ)の神聖な儀式のように、かなり凝ったもので公開されることもあります。時に、仏教で実践される瞑想や、さまざまな宗教的伝統の一部である個人の祈りの形態のように、あまり凝っていないものは、ほとんど公開されません。そのような活動の説明に「儀式」という言葉を使用する時、必ずしも、取らなくてはならない特定の正確な形態の存在を示唆しているわけではありません。多くの儀式の形態には、外側(または目に見える)と内側(または目に見えない)の両方の側面があります。

II.II. 経験的側面

宗教的実践の形態が異なるのと同様に、人々が得たと主張する宗教的経験も異なります。ブッダは、瞑想を通して経験した悟りについて語りました。さまざまなヘブライ人の預言者と預言者ムハンマドは、宗教的教えの基礎となった啓示的経験について語りました。報告されているいくつかの宗教的経験はかなり劇的です。例えば、使徒パウロのダマスカスへの途上での転向、アジアの中部および北部のシャーマニズムに伴うエクスタシーの経験、そしてユーラシア、アフリカ、太平洋地域の一部における憑依現象です。他の報告された宗教的経験は、それほど劇的ではないかもしれませんが、それにもかかわらず彼らは、それを経験する人々によって本当の意味を持つものと見なします。その例としては、神聖な畏敬の念、神の啓蒙、啓発、空(くう)、救済の保証などの経験があります。

II.III. 物語や神話的側面

実にたくさんの宗教に物語があります。これらの物語は、神、複数の神や他の精神的実体の活動、神聖な教師の経歴、宗教的集団の経験などについてかもしれません。ユダヤ教とキリスト

教の聖書には、創世記、十戒がモーゼに与えられたこと、神の導きによるイスラエルの民の出エジプト記についての物語がこのカテゴリーに入ります。また、オーストラリアの先住民の宗教に伝わる、土地の輪郭を形作る際の神聖な存在の活動もです。預言者ムハンマドの生涯についてのイスラムの物語と、ゴータマ（ブッダ）の経験について仏教の物語もあります。スマートは、純粹に技術的な意味で「神話」という言葉を使用して、宗教的意味を持つ物語を指すと強調しています。彼は、物語が必ずしも偽であるとは示唆していません。文字使用以前の文化の大半では、宗教的信条は主に物語の形で表現され、これらの物語は口頭で伝えられました。

II.IV. 教義と哲学的側面

とりわけ文字使用の文化において、体系的な命題形式の教義は、最初に物語形式で出されたものに反映されることがあります。これらの教義は、より一般的な哲学的情報源から少なくとも部分的に導き出すことができます。これらの信念や教義の内容は、キリスト教における三位一体の教義から、すべての生き物が対象となる、死と再生の連続的なサイクルに関するヒンズー教の教えに至るまで、宗教ごとに大きく異なります。99の名前を持つイスラムの神から、ブッダの苦しみの本質、苦しみの原因、苦しみの中断の可能性、「四聖諦」の教えに至るまで、これにつながる方法の結果です。ヒンズー教、仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの宗教には、宗教的な物語や教義が記録されている教典があります。

II.V. 倫理的側面

スマートによれば、「歴史を通じて、宗教には通常、倫理規定が組み込まれています」（*The Religious Experience of Mankind*, 3rd edition, p.9）例えば、仏教では、「五戒」によって人の行動が制御されるべきであると教えられています。殺すこと、盗むこと、嘘をつくこと、不当な性行為や中毒を自戒させます。ユダヤ教には、十戒だけでなく他に多くの道徳的、儀式的規定も含まれるトーラー（律法）があります。同様に、イスラム教にはさまざまな道徳的、儀式的任務を規定するシャリア（法律）があります。キリスト教において、イエスは、「あなたの隣人をあなた自身と同じように愛しなさい」という戒めにおいて、倫理的指導をまとめました。少なくともある程度、宗教の倫理的側面は、その教義と神話の側面の一部とが結び付くのかかもしれません。例えば、仏教徒が麻酔薬を控えるというのは、そのような物質が自己認識を妨げるとの認識で一致しているからです。キリストの他者に対する愛についての教えは、キリスト自身の行動の物語や、神が愛であるという教えと一致しています。そして、シャリアにおける厳格な道徳規定は、各人が最終的に神の判断の対象となるというイスラム教の教えと一致しています。

II.VI. 社会や施設の側面

原則として、個人が独自の宗教的信念を持ち、必ずしも他の宗教的信者と結び付けずに自分の宗教的实践に従事することは可能ですが、ほとんどの宗教はある種の社会組織を持ってい

ます。特に、いくつかの小規模な社会では、宗教的实践が行われている社会制度は、経済活動などの他の活動が行われているものと同一であることもあります。他の社会では、キリスト教の修道院、仏教の僧院、ユダヤ教やイスラム教の忠実な人々の集会場など、特殊な宗教施設があります。キリスト教のような幅広い宗教的伝統の中でさえ、ローマ教会の、公式化され階層的なシステムから、いくつかのプロテスタント教会の、より平等なそして非公式のシステムへの、複数の宗教団体モデルが存在するかもしれません。すべてではありませんが、多くの宗教には、導師、修道士、司祭、イマーム、イスラム聖職者、ラビ、聖職者、シャーマンなどの聖職者階層制があります。

II.VII.物質的側面

スマートは近著で、宗教の7つ目として、特定の宗教的工芸品、場所、建物、紋章などがあることを認識して、物質的側面を追加しています。これらの相対的な重要性は宗教によって異なります。例えば、いくつかの小規模な社会では、特定の宗教的な建物はありません。一方、オーストラリアの先住民宗教の神聖な場所や伝統的な日本の民俗宗教の富士山など、宗教的意味を持つ自然環境の一部があるかもしれません。寺院やモスク、教会は、仏教、ヒンズー教、ユダヤ教、イスラム教およびキリスト教の物質的側面の一部を構成しています。さまざまな宗教には、トーテム、聖なる遺物、エンブレム、聖餐式の要素などのような聖なるものや象徴的なものもあります。上記の側面のすべてまたは大部分が、世界の主要な宗教に存在していますが、特定の側面に重点を置くことは宗教によって、また同じ広範な宗教内でも異なることがあります。スマートが以下に観察するように、

宗教的な活動や兆候はあるが、それらの側面が弱過ぎてほとんど存在しないほどです — 文字を使用しない小規模社会には教義の側面を表現する手段がありません。仏教のモダニストは瞑想、倫理、哲学に集中しており、仏教の物語の側面にはほとんど注意を払っていません。いくつかの新たに形成されたグループは、物質的な側面において何の発展もないかもしれません。

また、正式に存在する社会宗教団体の一部ではなく、独自の世界観と慣行を持っている人たちがたくさんいるため、十分に形成された社会的な側面を一切持たない宗教を少数観察することができます。(Ninian Smart, *The World's Religions: Old Traditions and Modern Transformations*[世界の宗教：古くからの伝統と現代の大変革], p.21)

III. サイエントロジーの分析

このセクションでは、サイエントロジーの分析が上記の側面に関連して行われます。説明の便宜上、検討される側面の順序は、上記で採用されたものと全く同じではありません。

III.I. 教義と哲学的側面

『サイエントロロジー・ハンドブック』 (iページ) は以下のように述べています。

「サイエントロロジーの最も重要な教義は以下のものです。あなたは不滅の精神的存在である。あなたの経験はひとつの人生を遥かに超えて続いている。あなたの能力は現在実現されていないとしても無限である。」

これらの言葉では、サイエントロロジーは、他のさまざまな宗教の中で魂や精神と呼ばれるものと大きな相似性を持つ実体の存在を前提としています。従来の魂の概念との混同を避けるために、サイエントロロジーは思想や人生のシンボルであるギリシャ文字「シータ (θ)」から、この実体を「セيطان」と呼んでいます。セيطانはものではなく、心でもありません。それはものを『創造するもの (creator)』なのです。それはその人自身です。個人であり続けているアイデンティティーです。セيطانは不滅であり、質量、エネルギー、空間、時間の創造を含む何かを達成する能力があると言われています。(『サイエントロロジー・ハンドブック』 lxxxvページ、『サイエントロロジー: 思考の原理』 86ページ)

サイエントロロジーの教義によると、

通常セيطانが位置するのは、頭蓋骨の中か身体の近くです。セيطانは次の4つのいずれかの状態にある可能性があります。

1. 身体または複数の身体、あるいはこの宇宙からさえも完全に離れている状態。
2. 身体の近くにおいて、その身体を意識してコントロールしている状態。
3. その身体 (頭蓋骨) の中にいる状態。
4. 反転した状態で、その人はその身体から強迫観念的に離れ、それに近付くことができない状態。

これら4つの状態のそれぞれには段階 (さらに細かいレベル) があります。これらのうちで、人間の立場から見て最適なのは第2の状態です。(『サイエントロロジー: 思考の原理』 66-67ページ)

サイエントロロジーでは、セيطانというのは悪化した状態に陥りやすいものですが、すべての能力を持った状態にいつでも戻れる、と主張します。サイエントロロジーにおける「プロセシン

グ」または「オーディティング」の目標のひとつは、上記の第2の状態、すなわちサイエントロジーによれば、そうでないよりもより幸福であり、より能力が高い状態にすることです。(『サイエントロジー：思考の原理』67ページ) これについては、後のセクションでより詳しく説明します。差し当たって、サイエントロジーの教義の基本的要素は、人間は3つの部分で構成されているということで十分でしょう。身体：組織化された物質、心：本質的に映像から構成されているもの、そしてセイタン：魂や精神であり、身体に生命を与え、心を使って自分自身と物質宇宙をつなぐ制御システムです。セイタンは、これら3つの部分の中で最も上位にあります。「なぜなら、セイタンなしでは心もありませんし、身体に生気を与えるものもないからです。一方、身体や心がなくてもセイタンには依然として生気や生命があります。」(『サイエントロジー：思考の原理』74ページ、『サイエントロジー：思考の原理』65-74ページ、『サイエントロジー・ハンドブック』1xxvページ)

サイエントロジーは8つのダイナミックス(存在や生存に向かう原動力や衝動)も特定します。サイエントロジーの文献に記載されている、または表示されている方法には比較的小さな違いがあります(『サイエントロジー 0-8：基本の書』83-96ページ、『サイエントロジー：思考の原理』38-39ページ、『サイエントロジーとは何ですか?』153-155ページ、『サイエントロジー・ハンドブック』51-67ページ)。これらのダイナミックスは以下の通りです。

1. 自己として存在しようとする衝動。
2. 未来の世代として存在しようとする衝動。
3. 学校、町、国家などグループとして存在しようとする衝動。
4. 人類という種として存在しようとする衝動。
5. ありとあらゆる生物のために存在しようとする衝動。
6. 物質宇宙(物質、エネルギー、空間、時間)として存在しようとする衝動。
7. 精神として存在しようとする、または精神の存在に向けられた衝動。
8. 無限や至高の存在として存在しようとする衝動。

ダイアネティックスで、L. ロン ハバードはこれらのダイナミックスの最初の4つを特定しました。サイエントロジーで、彼は他の4つを追加しました。精神(セイタン)の概念についてす

に述べられていることを考えると、サイエントロジーの7と8のダイナミックスは、特に宗教的な性質を持っています。ハバード自身によると、第8ダイナミックの「無限」は至高の存在と見なされ、このダイナミックは「神のダイナミック」とも呼ぶことができると述べています。(『サイエントロジー:思考の原理』39ページ)彼は「サイエントロジーでは、科学的に証明され分類された既知の領域として1から7までのダイナミックスという考えを取り入れています」。そして、「第7のダイナミックに完全に到達して初めて、人は真の第8のダイナミックを発見することができる」と言及しています。(『サイエントロジー:思考の原理』39-40ページ)

サイエントロジー教会の信条は、神について2度述べています。すべての人間のさまざまな侵すべからざる権利を記した後、この信条は「神にまで至らないいかなる力も、あからさまにせよ、ひそかにせよ、これらの権利を保留したり、顧みない権限を持っていないこと」と宣言します。後にこの信条は、神の法律は、人間が仲間の人間に対する特定の種類の破壊的行動に関わることを禁じると断言しています。信条の中では、神の特質について何も言われていません。

もうひとつの公式出版物である『サイエントロジー教会の背景と儀式』は、さまざまな宗教哲学の簡潔な説明から始まり、サイエントロジーが似ている点に注目しています。そこでは、こう述べています。

サイエントロジーでは、精神的に意識が高まるにつれて、必然的に神、あるいは至高の存在、不動の第一運動者を信じるようになります。

必然的に、神の定義は主観的でなければならず、私たちはすべての人々のために神を現実として定義しようとしません。理論的には、人が精神的に進歩した時にのみ、すべての現れにおいて、神を完全に知ることが可能になります。(The Background and Ceremonies of the Church of Scientology of California, World Wide, 1970, p.22)

不動の第一運動者としての神の概念は、その出版物の他の場所でも繰り返されています。ここでは、「創造主または至高の存在」(10ページ)、「宇宙の創造主」(27ページ)、「人間とその製作者との関係」(16ページ)

要約すると、サイエントロジーは至高の存在である神が存在することを認めているが、神が存在する形についての教義はありません。にもかかわらず、サイエントロジーは、サイエントロジーで利用可能な精神的進歩の過程を通して、すべての人が第8、すなわち神のダイナミックに到達することができ、神の本質がそれぞれ主観的に明らかになると説いています。

したがってサイエントロジーは、いくつかの点で神について教義上の定義や記述に慎重である仏教や、ユニテリアニズムなどの宗教に類似しています。サイエントロジーは、伝統的な西洋の意味での神の崇拝を伴いません。むしろ、多くの東洋の宗教と同様、サイエントロジストたちは、個人の精神的な意識や啓発を求めます。次のセクションで明らかになるように、サイエントロジーは西洋の宗教よりも東洋の宗教に近い方法もあります。

III.II.物語や神話的側面

物語や神話的側面は、物質宇宙の起源について、L. ロン ハバードの著作で物質 (Matter)、エネルギー (Energy)、空間 (Space)、時間 (Time) (MEST/メスト)から成っていると明確に述べています。ハバードによると、「**人生はゲームです。ゲームは自由、障害、目的から成り立っています。**」(『サイエントロジー：思考の原理』54ページ) ゲームをするために、セイタンはいくつかの制限を強いるメストを創造しました。セイタンはその後、無制限の能力という意識を失っていき、自ら創造したメストに巻き込まれるようになりました。サイエントロジーの目的は、セイタンがこれらの無制限の能力を再発見できるようにすることです。これは「反応心(事故後または麻酔下にあるような完全または部分的に無意識で、物理的または感情的な外傷を経験している時に起こったことを記録する心の部分)」の内容を消去することを含みます。このような衝撃的な時に人の近くで言われた、あるいは行われたすべての知覚は、サイエントロジーによれば、「エングラム」として反応心に記録されます。

ハバードは、現在の生涯だけでなく、過去の人生においてもエングラムが蓄積されている可能性があることを教えました。『Have You Lived Before This Life? (前世に生きていましたか?)』で彼は「前世の存在は、サイエントロジーで証明されている」(1ページ)と述べており、人々が前世のさまざまな出来事を詳しく話す物語を紹介しました。『サイエントロジー：人間の歴史』の導入部でこう述べています。「これは、あなたの過去76兆年についての残酷な実話です。」(3ページ) また彼は、オーディティングの範囲を現在の生涯に限定した時、精神的、身体的に苦しんでいる人にもたらされる成果は遅く、月並みでしかない一方で、前世を含む「全軌跡」を対象にしたオーディティングでは、その成果は素早く、飛躍的なものであったと報告しています。(4-5ページ) 『Mission into Time (時へのミッション)』(もともとは『A Test of Whole Track Recall (全軌跡の想起の試み)』の表題で出版)の中で、彼は紀元前200年頃にカルタゴの船乗りだった時のことについて述べています。さらに、「過去80兆年の間、自分がどこにいたのか、誰だったのか確信を持って知っています。」(69ページ)彼はまた、反復的な種類の社会が存在し、例えば、自分の全軌跡をオーディティングしたことから、次のようなことを発見したと主張しました。

およそ33兆年前にこのような社会がありました。大体1920年代、19世紀のロココ様式とあまり違いがなかったと思います。鉢植えのヤシのようなものを基調にした、フェドーラ帽と

か、同じような衣服です。派手な男性が太いストライプのシャツを着ていました。かなり時間が経ってから、同じ土地に自動車や機械などについては何も知らない、たくさんのミナレットや大きなターバンやバギー・パンツなどのあるアラビア文明が現れました。(『Mission into Time (時へのミッション)』74ページ)

上記の引用を考慮して、サイエントロジーの物語や神話の側面を構成します。前世の信仰は、ヒンズー教や仏教の輪廻に関する教えといくつかの類似点がありますが、サイエントロジストは自らの信仰を述べるためにその言葉を使いません。サイエントロジーに関する正式な参考文献はこう述べています。

今日サイエントロジーでは、多くの人が現在の生涯よりも前に複数の生涯を生きたことがあると確信しています。これは生まれ変わりではなく、前世と呼ばれます。

前世はサイエントロジーの教義ではありませんが、一般的にサイエントロジストは、オーディティング中に前世を経験し、その後自分たちが以前に生きていたことを知ります。(『サイエントロジーとは何ですか?』643ページ)

ですから、サイエントロジーの物語または神話的な側面は、過去のセイタンの活動や経験(それらが物質、エネルギー、空間、時間の創造、またはこの生涯あるいは過去の生涯でセイタンに影響を及ぼした重要な出来事と関係しているか否か)を強調しています。物語のさらなる側面は、サイエントロジーの教えと実践の権威であるL. ロン ハバードの伝記のさまざまなサイエントロジーの出版物の中で述べられています。

III.III.実践と儀式的側面

サイエントロジーの中心には、独特な宗教的実践があります。その中心的なものは、**オーディティング**や**プロセッシング**と呼ばれています。この実践には、正式に叙任された**オーディター**(サイエントロジー教会の聖職者またはトレーニング中の聖職者)とオーディティングの恩恵を求める人物(**プリ・クリアー**と呼ばれる)との間に1対1の関係があります。オーディターの目標は、プリ・クリアーが過去の経験からもたらされた衰弱した刻印(エングラム)を発見して消去するのを助けることです。通常、2時間半のオーディティング・セッションで、オーディターは組み立てられた一連の質問を行い、次の質問の前に、プリ・クリアーによって述べられた各質問の答えに対して**アクノレッジ**します。このプロセスの一環として、オーディターは精神的な苦痛または困難の領域を特定するのに役立つ、**エレクトロサイコメーター**(Eメーター)を使用します。さまざまなオーディティングのプロセスがあり、それぞれのプロセスは、各プリ・クリアーが自分の存在の一部に直面し、処理する能力を向上させるのを助けるためにつくられています。人の存在のひとつの特定の領域がこの

ように申し分なく処理されると、オーディティングのプロセスは別の領域に移行します。多くのオーディティング・セッションを要する究極の目的は、**クリアーと機能するセイタン** (経験的側面の見出しのところでさらに説明されている) と呼ばれる新しい状態に到達することです。

サイエントロジーのオーディティングは、他のいくつかの宗教における告解と聖職者カウンセリングの実践に似ていますが、独自の特徴や手順、そしてその手順の精神的意義の独自の解釈もあります。サイエントロジストは、そのようなオーディティングは他では見られない効果を持っていると主張します。公式の出版物によると、

オーディティングの技術には、不確かな性質のものはありません。変則的な結果でも、行き当たりばったりの適用でもありません。オーディティングは漠然とした自由連想の期間ではありません。各プロセスは、その設計と適用において正確であり、正しく行われれば、確実な結果が達成されます。

サイエントロジーのオーディティングは、どの人にも精神的な盲目状態から精神的な存在という輝かしい喜びをもたらすことができます。(『サイエントロジーとは何ですか?』164ページ)

サイエントロジーのもうひとつの基本的な実践は「トレーニング」と呼ばれます。これには、L. ロン ハバードによって明確に述べられたサイエントロジーの公理と原則の体系的な勉強および適用が含まれます。そのような多くのトレーニング・プログラムが利用でき、基本原則を教える入門コースから、プロフェッショナル・オーディターを養成する長期コース、そして、最高レベルの精神的意識と能力に対応する上級コースにまで及びます。

これらのプログラムの施設では、トレーニングを受けたコース監督者 (聖職者) の一般的な指導のもとで、個人が所定の教材を勉強し、実際にそれを適用し、自分のペースで取り組みます。サイエントロジストがオーディティングについて、クリアー以上の達成には不可欠であると考えるように、クリアーの状態を超えて進歩し続けるためにはトレーニングが不可欠と考えます。このような訓練の内容はサイエントロジー特有のものですが、サイエントロジストがそのような訓練がもたらすと信じている目的は、他の宗教におけるさまざまな精神的訓練や教育プログラムによってもたらされるものと類似しています。

サイエントロジーの実用的で儀式的な側面には、他の宗教に見られるものといくつかの面で類似している要素も含まれています。サイエントロジー教会の日曜サービスでは、ユニテリアン普遍主義教会に似たものが見られます。説教の焦点は、典型的にサイエントロジーのいく

つかの側面 (例えば、その公理、その規律、または8つのダイナミックス) にあります。「サイエントロロジー教会の信条」と、「完全なる自由のための祈り」が提供されるかもしれません。他の宗派と同様、サイエントロロジー教会では命名式、結婚式、葬式などの通過儀式も行われます。前世に関する教義があるため、命名式はサイエントロロジーにおいて特に重要です。

III.IV. 経験的側面

すでに述べたように、サイエントロロジーの第一の目的は、個人がクリアーの状態を達成できるようにすることです。これには、すべてのエングラムを消去し、「反応心」を取り除くことが含まれます。サイエントロロジーによると、クリアーになることは個性と創造性、本来備わっている善良さと品位を回復させ、強化します。『サイエントロロジーとは何ですか?』によると、クリアーの状態を達成した人たちは、福音伝道キリスト教徒がキリストとの出会いの結果として人生が変わったことを述べるのと同程度に、それを感情豊かに表現します。(364-365ページ) サイエントロジストはサイエントロロジーの出現前には、クリアーの状態が不可能であったと主張します。

クリアーの状態の素晴らしさは、私たちの文化に存在するどの書物にも見られないものです。この状態は長い間探し求められていましたが、L. ロン ハバードの研究と大発見なしに達成することは不可能でした。どんなに有能であっても、どんなにパワーを持っていても、強さにかかわらず、反応心はまだ隠されていて、最終的に再び彼を引きずり落としました。クリアーの状態は今日存在し、すべての人が達成することができます。世界各地の数多くのサイエントロジストがクリアーであり、日ごとに増えています。(『サイエントロロジーとは何ですか?』 245ページ)

サイエントロロジーが与える救いは独特で、逆説的ですがアブラハムの宗教 (ユダヤ教、キリスト教、イスラム教) と類似しています。

サイエントロロジーはまた、クリアーの状態を達成した後、さまざまなレベルの「機能しているセイタン (Operating Thetan)」 (OT) である精神的自由のさらなる高みへと進むことが可能であると教えています。機能しているセイタンは、クリアーより上の存在の状態として定義され、そこでクリアーが「彼の本来の能力に精通している」ようになります。機能しているセイタンは、人生、思考、物質、エネルギー、空間、時間に対して、知りながら、進んで起因に立っているビーイングです。(『サイエントロロジーとは何ですか?』 247ページ、274ページ) この文脈での「機能している」とは、「実行し、物事を処理することができる」という意味です。(『サイエントロロジー 0-8』 424ページ) この状態が完全に達成されると、セイタンは何でも達成する能力を得ます。(『サイエントロロジー・ハンドブック』 lxxxvページ) したがって、人がOTレベルを進むにつれて、セイタンが遠い昔に失ってしまった能力を回復させ、最終的にそのセイタンは、精神として

完全な意識、記憶と能力の段階に達するまでに、生と死の果てしないサイクルから解放されると主張しています。(『サイエントロジーとは何ですか?』247ページ) この状態は仏教徒が「涅槃 (ニルヴァーナ)」と呼ぶものと類似しています。

サイエントロジストが最高レベルの意識に向かって体系的に進歩するために使用する道、これを「完全なる自由へのブリッジ」と呼びます。サイエントロジーのさまざまな出版物には、その目標を達成するために従わなければならない一連のステップと、それらの各ステージに関連する意識の特性を示すチャートが含まれています。サイエントロジストは、自らの体験から、L. ロン ハバードによって描かれたこのルートの有効性を認識しており、またサイエントロジーは、仏教やヒンズー教およびヴェーダの教典、およびケルト、ギリシャ、初期のキリスト教の教えを通して、少なくとも1万年前にさかのぼる宗教的伝統の頂点であると主張しています。(「フェニックス講演」1-3章、『サイエントロジー・ハンドブック』lxxxixページ)

III.V.倫理的側面

サイエントロジーはまた、ブリッジに沿って進むことで、高い道徳性と倫理的基準の達成が必要であり、可能になると教えています。『サイエントロジーのエシックス入門』でハバードはこう述べています。「サイエントロジーの重要な大発見は『エシックスの基本技術』の開発でした。」(5ページ)

ハバードは、良い振舞いの集団で合意された規律を指して「道徳」という言葉を用いました(25ページ)。彼はエシックスを「すべてのダイナミックスにおいて自分自身と他者のための最適な生存を達成するために個人が取る行動」と定義しました(19ページ)。ハバードは倫理的な振舞いの合理性をこのように強調しました。「実際、エシックスを構成しているのは合理性であり、最高レベルの生存を目指すものです。」(18ページ)「ある道徳律が完全に合理的なものであるなら、同時にそれは、エシックスが完全に守られているものと見なすことができるでしょう。しかし、このふたつは、この最高レベルにおいてのみ同じであると言えます。」(25ページ)

サイエントロジーが進化するにつれて、特定の状況に適用できる一連の行動規範が開発されました。ひとつは「オーディターの規律」で、プロの基準を維持するために、オーディターが守るべき一連の約束事です。もうひとつは「監督者の規律」で、サイエントロジー教会内で監督を行う人に要求される行動原則を定めます。また、「名誉の規律」という、人間関係に適用されるより一般的な一連の行動原理もあります。さらに、「サイエントロジストの規律」で、人権を守り、世界中にサイエントロジーの拡張に向けた行動指針を提供します。(『サイエントロジーとは何ですか?』(730-737ページ))

サイエントロジーには、有害な振舞いまたは同意した道徳律に反する振舞いを表現する独自の用語があります。そのような振舞いは「オバート」と呼ばれます。オバートを隠したり、否定することは「ウィズホールド」と呼ばれます。オーディティングのプロセスでは、とりわけプリ・クリアーが受け入れる必要があるオバートとウィズホールドに注意が向けられます。

より一般的なレベルでは、サイエントロジーは「建設的で生存的な行動」の点から善と見なします。」(21ページ) 建設にはある程度の破壊が伴うかもしれないので、前者は、何かが良いと見なされるために後者を上回らなければなりません。逆に、建設的であるよりも破壊的であるものは、定義上、悪となります。

これらの定義を念頭に置いて、サイエントロジーは、個人が倫理レベルを段階的に上げ、8つのダイナミックスのそれぞれに沿って生存を高めることができる手段を設定します。「エシックスの技術」は、12の「倫理的な状態」または「コンディション」を特定し、より高いコンディションに移行できるように正確なステップまたは公式を提供しました。最低レベルでは、混乱のコンディションがあり、生産的なものよりむしろ障害だけがあります。最高レベルでは、パワーのコンディションがあり、生存を危うくするものはほとんどありません。これら2つの対極の間には、以下の順番にさまざまなコンディションがあります。裏切り、敵、疑い、背任、存在していない、危険、緊急、ノーマルに機能している、豊か、パワー・チェンジがあります。(『サイエントロジーのエシックス入門』3-4章)

サイエントロジストは、西洋の哲学的な討論において支配的なものとは異なる、いくつかの意味を「エシックス」と呼んでいますが、倫理的な側面は、サイエントロジーの基本的な部分であることに間違いありません。また、この見出しの下には、ハバードが「良識のみに基づいた普遍的な行動指針」として書かれた冊子『しあわせへの道』も関連しています。この小冊子で解説されている21の教訓は、サイエントロジストだけを対象としたものではありませんが、サイエントロジストによって道徳規範の一部として受け入れられています。乱れた性生活、殺人、盗み、違法行為、善意の人に害を与えることは禁じられています。要求されることは、自分を大切にすること、節度を保つこと、子供を愛し助けること、親を尊敬すること、良い手本を示すこと、真実を守ること、すべての人々のために運営される政府を支援すること、環境を保護し改善すること、信頼される人になること、勤勉になること、有能になること、他の人の信仰心を尊重すること、あなたがしてほしいことを他の人にしないこと、他の人から接してもらいたいように他の人に接すること、栄え成功することです。

このような道徳的原則の実践的表明として、サイエントロジー教会によって設立された機関は、薬物防止キャンペーン、麻薬中毒者や犯罪者のリハビリ、読み書き能力の向上、教育的不利益の是正、環境改善、災害救援、人権を守るための活動を行っています。

III.VI.社会や施設の側面

サイエントロジー教会の教会構造は、「完全なる自由へのブリッジ」で明確に定められたレベルに合わせた階層的なパターンで配置されています。最下位の階層には、フィールド・オーディターとダイアナティックス・カウンセリング・グループがあります。単独、またはダイアナティックス・カウンセリング・グループの一員として、フィールドオーディターは、トレーニングと認定されたレベルまで、オーディティングおよび入門サービスを提供することができます。このようにサイエントロジーに紹介された人は、ブリッジをさらに進んでいくことができ、その後、さらなるオーディティングとトレーニングのためにサイエントロジーの指定されたクラスV組織に紹介されます。

サイエントロジー・ミッションは、教会構造における第二階層を構成しています。そのようなミッションは、サイエントロジーがまだ確立されていない世界にもあります。それらは、ダイアナティックスとサイエントロジーの入門サービスを提供しています。完全な教会の地位が欠けているので、これらのミッションはサイエントロジーの聖職者をトレーニングしたり、叙任することはできません。しかし、ミッションの規模が大きくなり、高度に訓練されたリーダーシップの取れる、最終的にはサイエントロジー教会（クラスVオーガニゼーション）になることが期待されます。

クラスVオーガニゼーションは、構造内の第3階層を構成します。それらは、クリアーのレベルまでオーディティングとトレーニングを提供する権限があります。それは、フィールド・オーディターやミッションの活動を監督し、聖職者のための基本的なトレーニングを提供するほか、前述の儀式や地域社会サービスの中心となります。クラスVオーガニゼーションは、サイエントロジー教会が提供する日々の聖職の中核を担います。

世界各地の4つの主要な施設には、より高度なサイエントロジーのオーディティングとトレーニングのサービスを提供する、高いレベルの教会があります。これらのプログラムに参加している人は通常、集中的にフルタイムでそれらを行います。しばしば、彼らには地元のサイエントロジー教会に戻ってから、そこでそれらのサービスを提供し続けることが期待されます。

さらに高いレベルとして、合衆国フロリダ州クリアウォーターにフラッグ・サービス・オーガニゼーションがあります。この宗教修養施設は、さまざまな言語で、上級のオーディティングと最高レベルのオーディター・トレーニングを提供します。

サイエントロジーの最高レベルのオーディティングは、カリブ海を航行するフリーウィンズ号で提供されます。この船はサイエントロジーのフラッグ・シップ・サービス・オーガニゼーションの拠点でもあり、世界各地のサイエントロジストが参加するコンベンション、セミナー、特別なコースの場所を提供します。

サイエントロジー教会の国際的な経営管理は、ロサンゼルスにある教会組織が担っています。国際総代表は、それぞれが教会の特定の活動や機能を監督している11人の上級執行役員の支援を得ています。国際サイエントロジー教会 (CSI) の官僚的構造は、ローマ・カトリック教会のそれと似ていますが、CSI内のさまざまな役員の任務は、L. ロン ハバードによって提唱された組織および管理運営理論を反映した、サイエントロジー特有のものです。

サイエントロジー教会は、オーディティングとトレーニングに使用される手順が、ハバードの指示どおりに行われるようにすることに重点を置いています。サイエントロジーに関する彼の著作は、教典として語られています。したがって、これらの著作は、さまざまな他の宗教における神聖な著作によって実行されるものと同様の機能を果たします。サイエントロジーの正統派の最終権威者は、その目的のためにハバードによって設立された、リリジャス・テクノロジー・センターです。

不滅の精神的存在であるという信念と一致して、サイエントロジー教会の一部のメンバーは、サイエントロジーとその目標に永遠の奉仕を約束します。これらの人々が、シー・オーガニゼーションとして知られる宗教教団のメンバーです。独特の制服を着用し、一般的には共同生活を送ります。これもまた、他の宗教の宗教教団と明らかに類似しています。

III.VII. 物質的側面

イスラム教のモスク、キリスト教の教会、仏教やヒンズー教、ユダヤ教の寺院のように、サイエントロジーの教会は特定の宗教的シンボルでマークされています。サイエントロジーの文字Sと絡み合った2つの重なり合う三角形です。三角形は、サイエントロジーの教義における基本的な要素を象徴しています。ひとつの三角形の角は、親愛の情、現実性、コミュニケーションを表し、ハバードの教えによれば、合わせて理解をもたらします。もうひとつの三角形の角は、知識、責任、コントロールを表し、人生のあらゆる領域で必要とされるものです。

サイエントロジーのもうひとつの共通のシンボルは、陽光のような十字架であり、キリスト教の十字架に類似していますが、中心から4つの先端が延びています。サイエントロジーの十字架の8つの先端は、上記の8つのダイナミックスを表しています。この十字架は、サイエントロジー教会の聖職者がよく身に付けています。

その他の公認のシンボルは、ダイアネティックス、シー・オーガニゼーション、機能しているセイタンの状態の達成、および第6部門 (サイエントロジー教会のパブリック部門) のメンバーシップを表しています。これらおよび他の登録されたシンボルの使用は、リリジャス・テクノロジー・センターによって綿密に規制されています。

サイエントロジーの物質的側面のもうひとつの部分は、サイエントロジーの出版物で「教会のコンフェッショナルに使われる宗教上の用具」と説明されているEメーターです。Eメーターはオーディティングの重要な部分であり、サイエントロジーの基本的な活動の一部分です。

またサイエントロジーの物質的側面には多くの出版物があります。『ダイアネティックス』などのベストセラー書籍から、調査と発見シリーズの多数の書籍、『Eメーターの理解』、『サイエントロジー教会の背景と儀式』、『しあわせへの道』、その他ハバードによる約3,000本の録音講演があります。すでに述べたように、ハバードの宗教的な出版物はサイエントロジーの教典を構成します。これらの出版物の普及は、サイエントロジー教会によって惑星全体をクリアーの状態にする、というハバードの究極の目標に向けられた手段として見られています。

IV. 結論

上記の分析は、スマートによって特定された宗教の7つの側面が、すべてサイエントロジーに存在することを示しています。また、サイエントロジーは独自の特徴を持っていますが、その信条や実践の多くは、他の認識されている宗教のひとつ以上に似ているか、同類であることを示しています。

サイエントロジーが宗教であるかどうかという問いは、オーストラリアの高等裁判所でも検討されています。(The Church of the New Faith v. The Commissioner for Payroll Tax, Australian Law Journal Reports 57 [1983]: 785ff.) その裁判における全会一致の意見は、サイエントロジーは宗教であるということでした。その特定の事件における判決において、メイソン判事とブレナン判事はふたつの宗教基準を使用しました。「(i) 超自然的な存在、事実または原理に対する信念、および(ii) その信念を実行するために行動規範を受け入れること」(Australian Law Journal Reports 57 [1983]: 785) ウィルソン判事とディーン判事は、特定の考えと実践のシステムが宗教を構成しているかどうかを判断するために、以下の4つの基準を用いました。

(i) 特定の考えと実践またはそのいずれかが、超自然に対する信念(すなわち、感覚によって知覚可能なものを超え、現実性が拡張したという信念)に関わっている。(ii) 人間の本性、宇宙上の位置、超自然的なものとの関係に関する考え。(iii) その考えが、特定の振舞いの基準または規律に従うように求めるまたは奨励するものとして、または超自然的な意味合いのある特定の実践に参加するものとして、支持者によって受け入れられた。(iv) 支持者がどれだけ緩やかに編成されようと、信念や実践を変化させようと、認識可能なグループして構成されている。(Australian Law Journal Reports 57 [1983]: 785)

この事例でひとり以上の判事は、以下の事実をとりわけ考慮に入れました — サイエントロジーが最初に策定されて以来、その信念と実践に追加があったこと。サイエントロジーはその教会員が他の宗教との関係を捨てなければならないと主張していないこと。そして、サイエントロジーの実践においてその商業面をととも強調していることです。裁判官は、これらの事実のいずれも、サイエントロジーが宗教として認識されることを不適格としないと結論付けました。確かに、歴史のいろいろな時点で、認識されている他の宗教についても、同様の事実が述べられています。

前述の分析の理由から、私はサイエントロジーが正しく宗教と見なされていると考えています。サイエントロジーには、認識されている宗教に代表される特徴だけでなく、非宗教的ではない、個別の宗教として特有の信念や実践もあります。

アラン・W. ブラック

1996年1月24日



